

平成28年度第3回野菜需給・価格情報委員会消費分科会の意見概要

1 日時

平成29年3月10日（金）13:30～15:30

2 場所

独立行政法人農畜産業振興機構 南館1階会議室

3 概要

事務局から「最近の消費・輸入動向等について」（資料1）を説明の後、春野菜の需要見通しについて、意見交換。その結果を踏まえて小林座長が取りまとめ、各委員の了承を得た上で、3月17日開催の平成28年度第3回野菜需給・価格情報委員会に報告することとなった。

平成29年産春野菜の需要見通し等の概要及び最近の消費状況等に関する委員からの意見の概要は以下のとおり。

○ 春野菜の今後（4～6月）の需要見通しの概要

(1) 主要6品目

① 春キャベツ

- 売場では、原体野菜からカットサラダに販売がシフトしている傾向が見られる。気温は、ほぼ平年並の予報であり、加熱調理機会の増加も見込め、旬の寒玉と春系の併売で需要喚起等が図られ、需要増加を見込む。
- 寒玉は、九州産地の不作で5月頃の出荷数量は不足する可能性。
(注) 春キャベツとは、寒玉を含め、春に出荷されるもの。

② 春だいこん

- 売場では、昨年の価格高騰で1/2カット売りが定着して1本売りに戻っていないところが見られる一方で、カット売りによる適量ニーズへの対応等により需要が増加するとの見方もあることから、需要は平年並みを見込む。
- 生育状況は、西日本の主産地は1月下旬の雪害の影響で不作であり、一方、東日本の主産地（千葉、神奈川等）は低温による生育遅れがあるものの、気温の上昇とともに回復する見込み。

③ たまねぎ

- 売場では、たまねぎを使用したカットサラダの販売が増加傾向にあり、需要増加を見込む。
- 生育状況は、北海道産の残量が少なく、後続産地の佐賀産のベト病の影響で入荷量が減少するとの見方もある。
(注) たまねぎには、貯蔵後に出荷されるものと、収穫後、貯蔵せず出荷される新玉を含む。

④ 春夏にんじん

- 気温は、ほぼ平年並みの予報であり、加熱調理機会の増加も見込め、需要増加を見込む。
- 生育状況は、主産地の徳島県産が順調であり、3月下旬より出荷量が増えるとの見込みがある。

⑤ 春はくさい

- 一般消費者の需要期ではないため、市況の影響が出やすいが、需要は平年並みを見込む。
- 生育状況は、12月の降雨等で定植が遅れたことによる影響を懸念する見方と、関東産地の降雪の被害は無く、気温の上昇とともに生育は回復するとの見方がある。

⑥ 春レタス

- 売場では、原体野菜からカットサラダに販売がシフトしている傾向が見られる。需要は平年並みを見込む。
- 生育状況は、主産地の茨城県産は12月の降雨等の影響で生育が遅れているが、気温の上昇とともに回復する見込み。

(2) その他品目

① きゅうり

- サラダの食卓登場頻度が上昇している傾向が見られる。需要は平年並みを見込む。
- 生育状況は、入荷量は安定する見込み。

② トマト

- サラダの食卓登場頻度が上昇傾向にある一方、売場では、大玉トマトからミニトマトへの販売がシフトする傾向が見られる。需要は平年並みを見込む。
- 生育状況は、熊本県産が震災の影響で出荷数量が少ないものの、今後出荷が始まる栃木県産、愛知県産の生育が順調で平年並みの見込み。

③ ねぎ

- 鍋需要期から薬味需要期となり、売場ではバラ売りの比率が高まり、薬味カットねぎの需要が増加する傾向が見られる。需要は平年並みを見込む。
- 生育状況は、主産地の関東産の生育が順調であり、平年並の出荷の見込み

○ 最近の消費状況等

(1) 昨年10～12月の野菜価格高騰以降の状況について

①昨年の価格高騰時に主要品目の輸入野菜が増加したが、その後の動き及び今後の見通しはどうか。

- 国産野菜の価格が安定するとともに落ち着きつつある。
- 生産者の減少、高齢化による作付面積減で相場上昇傾向は避けられず、消費者が感じる値頃とかけ離れつつある為、輸入増加は避けられないのではないか。

②カット野菜、冷凍野菜、漬物、工場野菜については、昨年の価格高騰時に消費が増加したが、その後の消費動向はどうか。例えば価格が落ち着いて以降も、価格高騰時前（平時）よりも消費量が増加して推移する等の変化があるか。

- カット野菜は価格高騰前から110%を超える伸び率であり、価格高騰時に伸長した後も、商品は高騰時前の伸び率で推移しており引き続き増加傾向。
- ニューファミリー世代中心に簡便需要が増している感あり。
- カット野菜の消費は伸びたが、国産野菜の価格が安定して原体野菜の消費に戻る消費者もいる。また、価格高騰時に値頃感を出すために1/2カットで販売したが、その後価格の安定とともに徐々に原体に消費は戻ってきてはいるが、以前より少ない状況。
- 一般野菜が価格安定すれば、消費者はすぐに戻る。
- 冷凍野菜の消費が増加しており国産化の動きがある。

③上記②の動向を踏まえて、今後どのような対応を考えているか。

- カット野菜は今後の消費量増加は続く為、取扱い品目を増加させる。
- 世代ごとのニーズが多様化しており、販売側もニーズに沿った戦略が必要と感じている。価格訴求する輸入農産物や簡便訴求するカットサラダ、高級志向に対するこだわり品開発等に対応していく。
- 価格高騰時に野菜の調達に苦慮したため、安定調達ができるように産地直送など市場外流通の商品（こだわり野菜など）を消費者に提案していく。
- カット野菜業者は、流通市場で低価格で野菜を求める割には、製品は高価格を保ち、野菜価格の高騰につながり、工場野菜はその栄養価の低さに不安が残る。

(2) 今春の注目すべき野菜はどのようなものがありますか。前記「1. 特にお聞きしたい論点（その①）」に係る主要品目以外の野菜でお願いします。

- アスパラガス
- スナップエンドウ・マッシュルームは本年も注目。他に「ビーツ」「ケール」等は業界内の動向見ながらチャレンジする予定。
- 産地直送（こだわり品）サラダ系野菜に注目（サラダたまねぎ）。
- たけのこ、山菜等の旬の春物が中心に動くように思う。
- 枝豆、国産パプリカ、スナップエンドウは居酒屋での消費が伸長。